

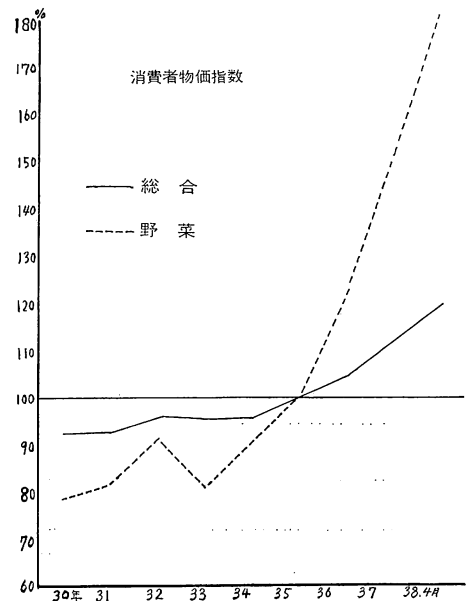


## 野菜の値上がり

暑い夏の到来とともに、八百屋さんの店先はにわかには活気ずき、ナス、トマト、キュウリ、スイカなどをはじめ色とりどりの野菜や果物でにぎやかになる。野菜や果物は私達の食生活で欠かせないものだ。肉や魚の料理にも野菜はつきもの、とくに夏場にはビタミン類を普段より多く取らなければならないから、それだけ消費量も多くなるというわけ。

ところで財布をあずかる主婦にとって、一番気にかかるのが値段のことで、いつもなら最盛期になれば相当に安くなるはずの野菜も、最近では一向にその気配がみえない。

消費者物価のなかでも野菜の値上がりの仕方は群をぬいており、グラフにみるように35年から急ピッチに上昇している。こんなに野菜の値上がりが激しいのは、それ相当の理由があるのだろうか、先日ある新聞がとり上げていたように、北海道のある小売店では、そのマージンが49%という常識では考えられないほどもうけていたとかで流通機構にも大きな問題がありそうだ。また、農家で雇う雇人の賃金の上昇、ビニールハウスなど生産設備費の増加など生産費の上昇ということも考えられるが、ともあれ生活に直結するものだけあつて国民はこれを肌で感じ、所得倍増どころか、物価増倍じやないかとなげいているこの値上がりをくいとめる名案はないものだろうか。



# 統計教育小論

—統計のおもしろさとおそろしさ—

東京教育大学教授 三 瀨 信 邦

「統計教育」とは一体どのような対象にどのような目的で、そして如何なる手段で統計を教育することなのだろうか。先づ対象についていえば統計生産者と統計利用者に大別できよう。そして前者に対する教育の目的はいうまでもなく真実性の高い統計資料を兼価にしかも早く生産する技術を教授することであり、後者に対する教育の目的は生産された統計の真実性をたしかめ、さらにそれを科学的に利用する能力を養うことであろう。

そして生産者に対しても、利用者に対しても統計教育の具体的手段の最初は学校における統計教育であり、必要に応じては職場での統計教育もあろう。ここでは、学校教育のうち小中学校段階における統計教育について私見を記そう。

小中学校の教科課程では統計は独立の教科目（国語と社会とか算数のような）ではなく、主として次の三教科で統計教育が取り扱われている。すなわち、

- 算数——数量観念の養成から出発して、順次に数字の各種計算方法が教授されるなかで、統計数字の処理にも応用できる計算方法、計算技術が教授されるしかし、算数科における教育はあくまでも抽象数の処理に関して行なわれることに注意しなければならない。
- 社会——社会現象の科学的認識について教授するなかで、社会現象の数量的な側面も多く取り扱われるが、ここで統計教育がもつとも総合的に行なわれるすなわち、統計調査（生産）、資料の加工、既存資料の利用方法など、この教科には統計教育の全分野をとり入れることができる。
- 理科——自然現象の規則性や自然科学の基礎的原理を教授するなかで、統計的方法（観察測定、資料の整理、そして法則の確認）が利用される。

もちろん以上にあげた三教科以外でも統計的方法が利用されないことはないが、それは比較的限られたばあい——数量化が可能——である。それでは以上の三教科を通じて教育指導されるべき統計教育の内容は何であろうか。一言でいえば、次の三つである。

- ① 統計資料を自分で作ること。（統計調査の初歩）
- ② 統計調査の結果を加工して、統計集団にあらわれる特徴をみつけ出すこと。
- ③ 既存の統計資料の正しい利用方法を知ること。

そして以上の三つが総合されて「統計のおもしろさとおそろしさ」が教授できれば、小中学校における統計教育の目的は達せられたといえるのではなからうか。

さて、次の統計調査におけるおもしろさとおそろしさとは何か。統計調査はそのものとしては児童にとつてたのしくおもしろい、というものではないだろう。なぜならば現象の忠実な観察と記録という地味な仕事とその主な内容だからである。そこで統計調査の前提となる調査項目の選定とその定義——たとえば、「お天気しらべ」における晴・曇・雨などの区別と観察時点・場所が調査結果を大きく左右すること。換言すれば、統計の技術的規定と、現象それ自体の理論的定義とのズレに気づかせることができれば、順次に教育課程が進むにつれて、統計のおもしろさとおそろしさが密接に関連していることがわかるであろう。よく初期の統計教育が「調査ごっこ」に終始していたのは、おもしろさだけに重点があつたからではなからうか。

- ② 統計資料の加工、分析におけるおもしろさとおそろしさ、とは何か。ここではグラフ化という仕事があるので、図工的なおもしろさは容易に見出されるだろう。しかし、グラフ化に進む前にもつと大切なことがある。それはグループ分け（分類）の問題である。たとえば、

「お父さんの仕事」をどのようにグループ分けするのか「お店やさん」のグループ分けはどうすればよいか。つまり産業分類や職業分類について基礎的なことを正確に教授することである。また第1次～第3次産業という例の産業大区分が、ほとんど何の疑問もなく小中学校の教科書に資料として登場しているが、電気・ガス・水道など、製造業（第2次産業）と少しも異ならない。産業が第3次産業に組み入れられているばあいが多い。これはほんの一例であるが、グループ分けの問題についてもう少し神経を使つてもよいのではないか。また、グラフ化については一般的にいつて絵画的おもしろさが表現の下正確さにつながることも改めて注意したい。

③ 既存資料のおもしろさとおそろしさ、とは何か。既存資料の利用は高学年になるほど必要性が増すが、このばあい、①でのべた、統計技術的規定と理論的規定とのズレの問題が何といつても最重要な問題である。

たとえば、「完全失業者」と「失業者」のズレ、「現金給与総額」と「賃金」とのズレ「常用労働者」と「賃金労働者」とのズレ等々。しかし、このズレの問題はそのまま直接に児童生徒の教材にする必要は必ずしもなくむしろ、統計数字は何を語り、何を語っていないのかを身近な統計資料で教授したいものである。しかし、いわゆる「統計のうそ」の問題は既存資料の一方的批判だけに終つてしまつては建設的ではない。むしろ、批判的利用という点に力点がおかれるべきであろう。紙数がつきたから、自然現象の統計についてはふれられないが、社会現象の統計に比べて前述のズレの問題はきわめて少ない。

最後に、統計教育や研究指定校制度が、とかく何か目に見えた作品発表のみに走る傾向があるのは、統計のおもしろさとともにおそろしさを教えることを軽視しているからであろうと思うのである。

## 統計課人事異動

(7月1日 発令)

(新)

(旧)

### 転入者

人口統計係	主事	小野瀬泰次	常陸太田土木事務所
農林統計係	主事補	大崎貞徳	総務部総務課

### 転出者

鹿行開発推進事務局 (鹿島臨海工業地) (帯開発組合派遣)	主事	中村健三	人口統計係
〃	〃	亀谷一郎	農林統計係

# 降 ひ よ う 被 害 状 況

降ひよう日時	市町村名	作物別	被害面積	減収見込量	被害金額
6月23日 午後7.30~8.30	明野町 結城市	たばこ	1,724 <sup>ha</sup>	138,437 <sup>kg</sup>	84,038 <sup>千円</sup>
		とまと	70	64,000	640
		たばこ	99	6,965	2,069
6月29日 午後3.40~4.10	真壁町	たばこ	13,402	161,703	55,302
		とまと	60	24,000	240
	茎崎村	たばこ	18	2,926	1,088
		すいか	10	14,000	216
6月30日 午後6.00~7.00	阿見町	たばこ	50	2,040	706
		すいか	298	315,000	4,851
		ぶどう	198	60,000	3,600
		きうり	30	9,000	135
		とまと	50	20,000	200
7月2日 午後3.30~3.40	水海道市	たばこ	107	86,746	27,756
		とまと	5	112,800	1,128
		たばこ	15,400	398,817	170,959
		とまと	185	220,800	2,208
		すいか	308	329,000	5,067
		ぶどう	198	60,000	3,600
		きうり	30	9,000	135
計			16,121	1,017,617	181,969

## 降 ひ よ う 部 落

明野町 田宿, 松原, 吉田, 竹垣, 海老島, 宮山の一部  
 結城市 田間  
 真壁町 桜井, 伊佐々, 亀熊, 塙世  
 茎崎村 大井  
 阿見町 荒川本郷, 一区, 二区, 三区, 上郷学校区, 西郷, 中郷, 竹来, 掛馬, 島津  
 水海道市 内守谷町, 坂手, 小絹, 菅生, 七郷

資料 県農産園芸課